

MURC Focus

悪化する英国の雇用情勢

～スターマー政権のかじ取りはますます難しく～

調査部 副主任研究員 土田 陽介

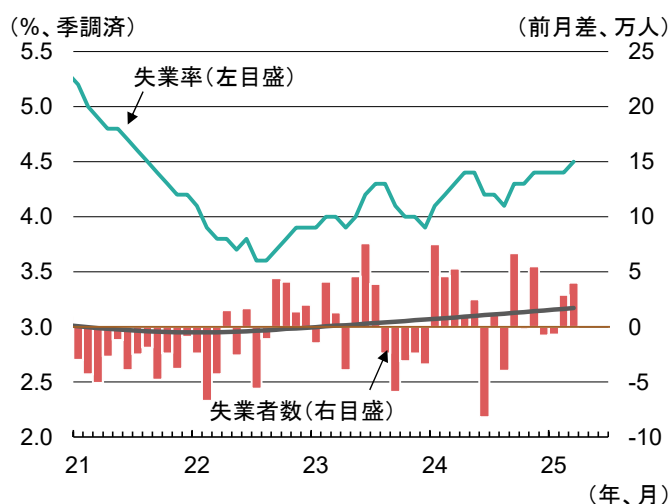
- 英国の雇用情勢は緩やかに悪化している。景気が停滞していることに加えて、左派のスターマー政権の政策で収益が圧迫されることから、企業は雇用調整を進める意向を強めている。
- 他方で、英国では賃金が上昇し続けている。労働需給がひっ迫したことに加えて、政府が最低賃金を積極的に引き上げてきたことが、23年後半以降の実質賃金の上昇につながっていると考えられる。
- 英国の事例は、スタグフレーション時代における左派色の強い政策の限界を端的に物語っている。二大政党制の抜本的な再編も視野に入る不安定な政情の下で、スターマー政権のかじ取りは難しさを増している。

1. 悪化の加速が見込まれる英国の雇用情勢

英国の雇用情勢は緩やかに悪化している。3月の雇用統計を確認すると、失業率(3カ月移動平均)は4.5%と2021年8月以来の高水準となった(図表1)。一方で失業者数の前月差も、断続的ながら増加トレンドを維持している。また中銀であるイングランド銀行(BOE)の景況感調査を確認しても、労働需給が長期平均(2000年以降の平均)の水準まで緩和していることが分かる(図表2)。

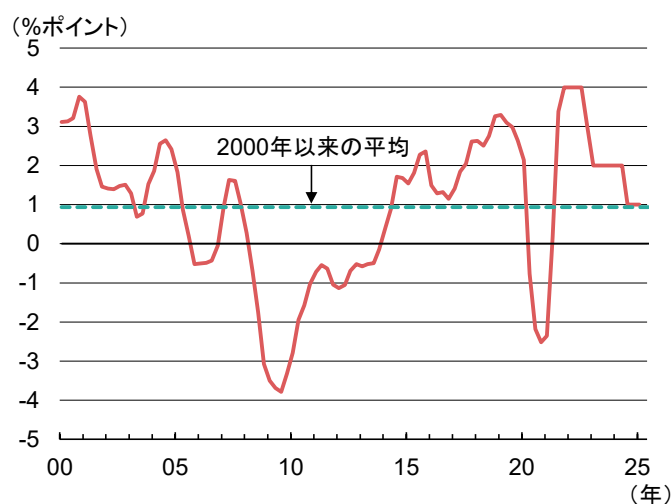
雇用情勢が悪化している最大の理由は、景気の停滞が続いていることにある。英国の最新1～3月期の実質GDP(国内総生産)は前期比0.7%増と24年10～12月期(同0.1%増)から加速した。一見すると良好だが、これはトランプ関税の発効を見越して駆け込みが生じた輸出(同3.5%増)と設備投資(同5.9%増)が増加したためであり、成長のけん引役である個人消費(同0.2%増)は低迷している。

図表1. 英国の雇用統計



(注1) 3カ月移動平均
(注2) 失業者数の灰色線は HP フィルター
(出所) 英国立統計局(ONS)

図表2. BOE エージェント調査(雇用の困難さDI)



(注1) 四半期ベース
(注2) プラスだと労働需給がひっ迫し、マイナスだと緩和することになる
(出所) イングランド銀行(BOE)

加えて、新年度となる4月以降、英国の雇用情勢は悪化が加速している公算が大きい。有力な人材管理関連団体である人材マネジメント協会(CIPD)が5月12日に発表した調査(3月24日~4月15日に2,004社の雇用主を対象に実施)によると、4~6月期中に雇用調整を進めると回答した英国の雇用主は24%と1~3月期から横ばいだったが、コロナ期を除くと14年以来の高水準となった。

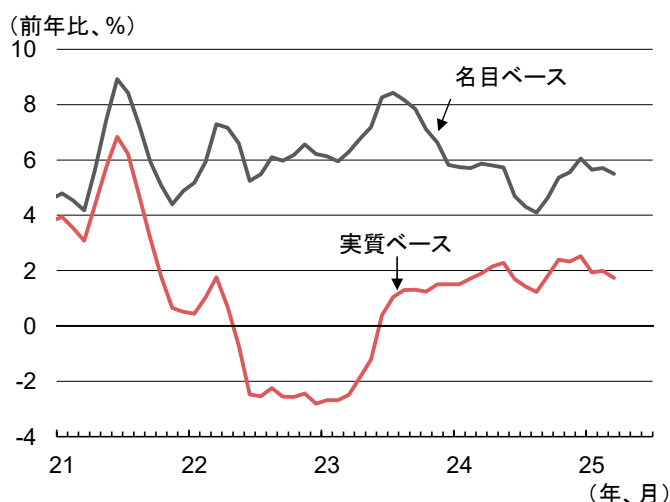
キア・スターマー首相が率いる労働党政権は、4月1日より、国民保険料の雇用者負担増や最低賃金の約7%引き上げ(時給11.4ポンドから同12.2ポンドに)などを実施した。こうした左派色の強い政策で収益が圧迫されるため、企業は雇用調整を進める意向を強めている。さらに、トランプ関税に伴う不透明感が企業の採用計画を慎重にさせていることも、雇用調整を加速させると懸念される。

2. 保守党政権時代から強まっていた英国の分配志向

他方で、英国では賃金が増加し続けている。つまり英国の実質賃金は、歴史的な高インフレを受けて2022年後半から23年前半にかけては前年水準を割り込んだが、23年後半以降は前年水準を上回り続けている(図表3)。この間に労働需給がひっ迫したことに加えて、政府が最低賃金を積極的に引き上げてきたことが、23年後半以降の実質賃金の増加につながっていると考えられる。

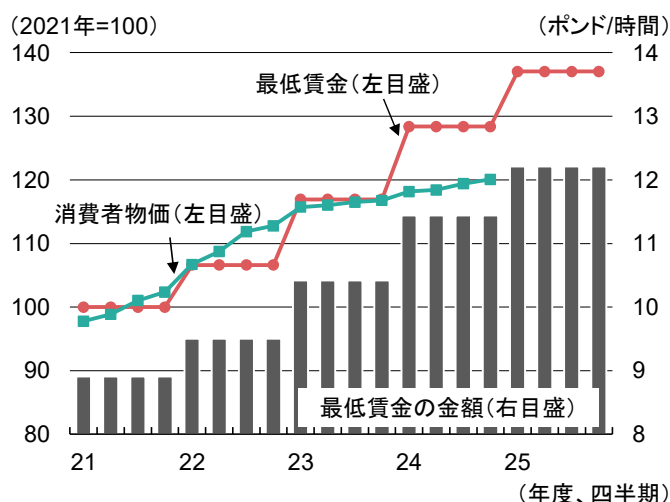
特に2024年4月の最低賃金の引き上げ幅(時給10.4ポンドから同11.4ポンドに9.6%引き上げ)は、消費者物価の上昇幅(同年度の消費者物価は前年度2.4%上昇)を大きく上回っている(図表4)。これは、解散総選挙(24年7月に実施)を意識したリシ・スナク前首相ら当時の保守党政権が、有権者の支持を獲得する観点から、最低賃金を大幅に引き上げることによる。

図表3. 英国の賃金(週給ベース)



(注) 3カ月移動平均
(出所) ONS

図表4. 英国の最低賃金



(注) 英国の会計年度は4月開始の翌年3月終了である
(出所) 英労働・年金省、ONS

このように英国では、政府が保守党政権時代から分配志向を強めていた結果、人件費が増大し、企業の業績を圧迫していたと考えられる。このような保守党政権による最低賃金の積極的な引き上げで賃金水準が上がったことに加え、労働党政権になり企業に対して国民保険料の雇用者負担増を強いたことから、英国の企業は雇用調整を進めざるを得なくなっていると考えられる。

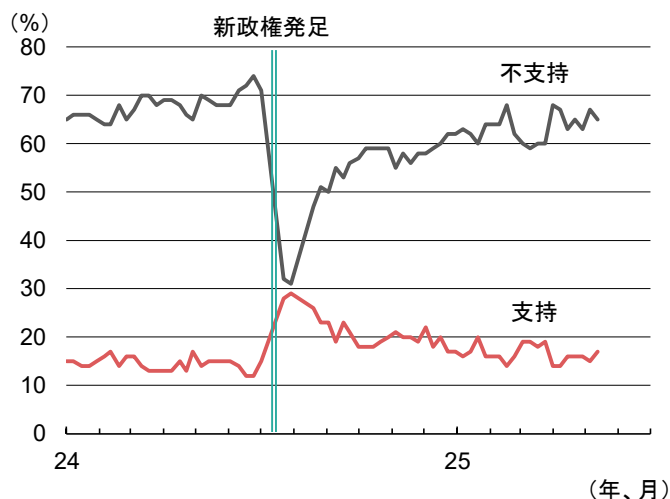
3. スターマー政権のかじ取りはますます難しく

2024年7月の総選挙で誕生したスターマー政権に対して、英国の有権者はスタグフレーション(景気停滞と物価高進の併存)の改善を期待していた。その実現のためには、需要を抑制しつつ供給を刺激する必要があるため、規制緩和に代表される「小さな政府」路線を歩むことが望まれるところだった。しかし、中道左派であるスターマー政権は「大きな政府」路線により経済再生を目指す方針を選択した。

つまり財政再建のための増税を行う一方で、最低賃金の引き上げなどの分配政策を強化したわけだが、こうした左派色の強い政策ではスタグフレーションの改善は図れない。有権者も経済情勢が改善しないことに不満を募らせており、政権に対する不支持率も上昇し政権交代前の水準まで高まっている(図表5)。他方で、極右政治家として知られるナイジェル・ファラージ氏が率いる改革党(Reform UK)の人気の高まっている(図表6)。

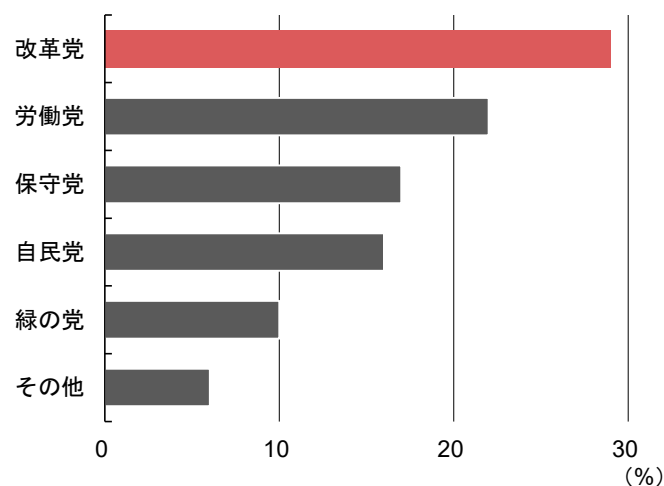
英国の事例は、スタグフレーション時代における左派色の強い政策の限界を端的に物語っている。米トランプ政権との間では早々に通商交渉をまとめたスターマー政権は国際的な評価を得た一方で、国内の有権者の評価は厳しさが増している。労働党と保守党から成る二大政党制の抜本的な再編も視野に入る不安定な政情の下で、スターマー政権のかじ取りは難しさを増していると言わざるを得ない。

図表5. 政権の支持率



(出所) Yougov

図表6. 主要政党の支持率(5月11日~12日調査)



(注) 2,310人を対象に実施

(出所) Yougov

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。